

APRICOT 2016 参加報告書

2016年3月22日

伊藤 大史

1. 参加したセッション名

1.1. 2月22日(月)

Routing Registry Function Automation using RPKI & RPSL (Part 1)

Routing Registry Function Automation using RPKI & RPSL (Part 2)

Opening Ceremony and APRICOT Plenary I

APOPS Plenary I

1.2. 2月23日(火)

APOPS Plenary II

BGP Techniques for Network Operators (Part 1)

Network Operations

Securing Transport

1.3. 2月24日(水)

Network Security

Software Defined Networking

BGP Multihoming Techniques (Part 1)

Network Measurements

1.4. 2月25日(木)

APNIC Policy SIG (1)

Troubleshooting BGP

Network State Awareness and Troubleshooting

APRICOT Plenary II and Closing Ceremony

1.5. 2月26日(金)

APNIC AGM (1)

APNIC AGM (2)

APNIC AGM (3)

2. 特に印象に残ったセッション

2.1. DDoS Threat Landscape - Challenges faced by Network Operators (Network Operations)

私は、以前から Arbor Networks による Worldwide Infrastructure Security Report (WISR) に興味があったため、このセッションに参加しました。私は、普段から DDoS 攻撃の調査にこの資料を使用していました。そのため、Arbor Networks の社員の方が直接この資料を説明するセッションを聴講することは非常に新鮮でした。

このセッションでは、DDoS 攻撃の標的、規模、方法等についてまとめた資料である WISR の解説が行われました。この解説により、DDoS 攻撃の規模が年々増加傾向にあること、攻撃方法が複雑になっていること、攻撃による被害状況等を把握できました。

DDoS 攻撃は、ネットワークセキュリティ分野において防御することが非常に困難な攻撃の一つであると考えます。加えて、このセッションの聴講により、DDoS 攻撃の防御はさらに困難になっている印象を受けました。このセッションでは、DDoS 攻撃対策の困難性と重要性を再認識することができました。

2.2. OpenFlow: What is it Good For? (Software Defined Networking)

このセッションでは、OpenFlow の実用例がいくつか紹介されました。実用例には、Google のデータセンタ等が含まれていました。また、実用例以外にも OpenFlow の使用が適している運用例が紹介されました。運用例には、DDoS 攻撃への対処、トラフィック量が大きなフローを受信した際の対処等が含まれていました。実用例や運用方法の紹介によ

り、OpenFlow の現状や利点を把握することができました。

OpenFlow は、既存ネットワーク技術では実現が困難であった様々な問題の解決を行うために開発された技術であると考えます。このセッションは、OpenFlow を使用して既存ネットワークにおける問題解決を行う具体的な使用例を説明していたために興味を持ちました。

3. 今回の経験を今後どう生かしていきたいか

様々な題目のセッションを聴講することで、ネットワーク技術に関する最新動向を把握することができました。この知識は、ネットワーク技術者としての成長を促進できたと考えます。一方で、知識不足や英語の能力不足により内容の理解が困難なセッションが少なからずありました。しかし、私に不足している知識や能力を明らかにすることができたという点では大きな収穫であったと考えます。そのため、今後はこれらの知識や能力の取得に取り組みたいと考えています。

セッションでは、世界各国の様々な発表者によるプレゼンテーションを聴講することができました。プレゼンテーションでは、ステージやジェスチャーの使い方等の聴講者の理解を促す工夫の仕方が発表者毎に異なっていました。これらの技術は、今後私が発表を行う際に活用できると考えます。

APRICOT 2016 では、セッションを聴講することでネットワーク技術に関する知識を得ることができました。しかし、この会議では知識の習得のみに限らず、学生の立場では普段得られないネットワークに関するビジネスの場の雰囲気を経験することができた点も大きな収穫であったと考えます。

これを強く意識したのは、会議の開催会場において新たなネットワーク事業の商談が行われているときでした。私は学生であるため、普段このよ

うな場面を拝見することはありませんでした。そのため、貴重な経験を得ることができたと考えるとともに、この経験は今後社会人になった際に重要になると考えます。

4. 参加支援プログラムに対する所感

APRICOT 2016 では、普段は得られない非常に意義のある経験を得ることができました。そのため、この会議に参加する機会を与えて頂いた参加支援プログラムには非常に感謝しています。また、参加支援プログラムの支援(飛行機や宿泊施設の手配等)により、会議の聴講のみに集中することができました。これらの配慮にも大変感謝しています。